

喜びをもって働く — 望ましい習慣の形成 ⑤ —

働く喜びの体感

年齢を問わず、働くことの最大の喜びは、人の役に立つこと、人に喜んでもらうことです。

出典 藤沢久美著「最高のリーダーはなにもしない」(ダイヤモンド社)

○ 私たちは、働くことで報酬を得ます。知識や技能が身に付き、人間性も向上します。これらは全て自分のため、すなわち「利己」です。



- 私は、働くことの真の喜びは「人の役に立つこと」、「人に喜んでもらうこと」にある、と考えています。自分の働きが「利他」に資するものになっているという実感は、自己有用感を高め、自尊感情を育み、生きる喜びにつながります。
- 手伝いや決まった家事の遂行を通して**家族の役に立つ**、学級、学年、学校、地域における自主的な活動を通して**他の人の役に立つ喜びの体験をより多く積み重ねることが、喜びをもって働く習慣を形成する基盤になると考えます。**
- 学級の係活動、児童会・生徒会の委員会活動等が、自己有用感の醸成につながっているか、不断に見直し、必要に応じて工夫・改善を図ることが重要です。

未来

小説家・詩人・政治家／ビクトル・ユゴー

未来はいくつか名前を持っている。弱者にとっては「不可能」。臆病者にとっては「未知」。考え深く勇気のあるものにとっては「理想」。

出典：「賢人たちに学ぶ 道をひらく言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ これからの未来は先行き不透明な「未知」ですが、「理想」の実現に努める人材を育成したいものです。